

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

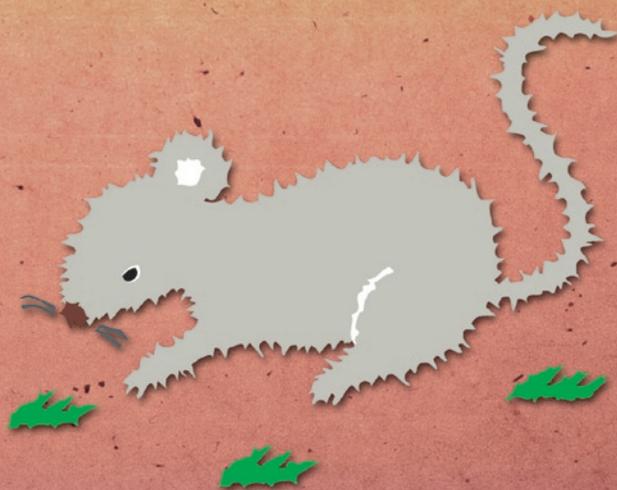
Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2019年12月
第39号
(年4回発行)

新年号

発行部数3千部

「お寺と節分」／ 丹羽義昭住職インタビュ
シリーズ浄土宗／浄土宗の宗紋と宗歌
実践教室／お香の意味
七福神めぐりウォーキング (新年開運七草粥の会) ご案内
厄払い節分会法要のご案内



お寺と節分

毎年恒例となった西願寺の「厄払い節分会法要」。二月三日には、各地で豆まきの様子が話題になりますね。浄土宗の大本山増上寺でも四季を彩る年中行事として「節分追儺式」が行われています。



西願寺での豆まき



季節の節目のとなる日の前日が節分

節分とは本来、季節の節目の日となる前日のことをいい、立春、立夏、立秋、立冬と年に四回あります。しかし、現在私たちが日常でいう節分は立春の前日（2月3日頃）だけを「節分」といい各地で行事が行われます。これは、旧暦では、新しい年の始まりを春としていたため、節分といえど大晦日に当たるこの日を重要視するようになったためです。

豆まきの由来

中国の宮中で行われていた辟邪の行事が奈良時代に日本に伝わり、平安時代に「追儺（ついな）」と呼ばれる宮中行事として取り入れられるようになりました。昔は、季節の分かれ目、特に年の分かれ目には邪気が入りやすいと考えられ、邪気を祓い、その後の一年の無病息災や国家繁栄を祈る「追儺」の行事のひとつである「豆打ち」の名残が「豆まき」で江戸時代に庶民の間に広がり、現在では各地の神社などの年中行事としても一般化するようになりました。

鬼は邪気や厄の象徴とされ、形の見えない病や、飢饉、災害などは鬼の仕業と考えられてきました。その鬼を払うのに使用される大豆は五穀の中でも穀霊が宿るといわれ、豆が「魔滅」、豆を煎ることで「魔の目を射る」ことに通じるため煎った大豆を使います。

福豆と福茶

豆まき用に煎った大豆を福豆いい、豆まきの後に食べる習わしがあります。その年の一年を無病息災で過ごせるようにと自分の年齢プラス1つの数をたべますが、年々増えていく食べる数に困ったら福豆を3粒と塩昆布、梅干にお湯を注いだ福茶を飲むというのもいいようです。



2020年の節分は2月3日

年によって変わる立春は、1985年から三十年以上変わらず2月4日でした。来年2020年も2月4日が立春でその前日である2月3日(月)が節分になります。しかし、2021年は立春が2月3日となり節分は2月2日となります。

西願寺の節分会

諸々の厄難を払い、福を招くとされる節分の行事は、西願寺でも「厄払い節分会法要」として毎年開かれ二〇二〇年には一〇回目を迎えます。今回も、二月三日(月)に行われますので皆さんお気軽に足をお運びください。

問 西願寺の節分では毎年力士も参加され福豆をまいていらっしやいますね。

住職 はい。ただお願いしている相撲部屋も近年は中々手がまわらないようなんですよ。それでも、おすもうさんが来るのを楽しみに来る方もいらっしやるので手は尽くしているところです。

問 年明けは、七草粥の会がありその後すぐに節分会なのでお忙しいですね。今は年末ですが、一年が駆け足で過ぎていくように感じます。

住職 そうですね。今年も、色々な事がありました。天皇陛下のお代わりがあり年号も変わりましたし、明るいニュースだけではなく、自然災害によ



る被害も多くあり心を痛めた方も沢山いらっしやいました。また、そのような自然の前では、私たちのいのちは生かされているものなのだということが強く感じさせられます。その事に感謝し日々を送ることの大切さを改めて気づかされた思いです。

問 お寺での教えは、いろいろな思いを抱えた私たちの心のよりどころとなるのではないのでしょうか。新しい年が皆さまにとってよい一年となつて欲しいですね。新年もよろしくお願い致します。

浄土宗の「宗紋・宗歌」

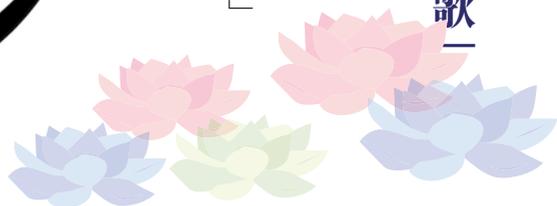
月かげのいたらぬ里は
なけれども

ながむる人の心にぞすむ

浄土宗宗歌「月かげ」



宗紋「月影杏葉」



「月影杏葉」

浄土宗の宗紋は、杏葉紋に月輪を付した「月影杏葉」と呼ばれる紋です。杏葉紋は大陸伝来の馬具唐鞍の飾りに起源します。杏葉紋を用いた家でもっとも有名なのが、九州豊後を本拠とした戦国大名大友氏とされ、大友氏は宗家をはじめ大友一族、功のあった家臣などが杏葉紋を用いていました。法然上人の生家である漆間家は、この大友氏の一族であったため杏葉を用いていたことに由来し、大正四年（1915）に蕊は、7個とし、宗歌「月かげ」の月を配した現在の紋が定められました。

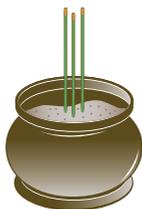
「月かげ」

宗歌の「月かげのいたらぬ里はなけれどもながむる人の心にぞすむ」という和歌は、鎌倉時代の勅撰和歌集『続千載和歌集』に選ばれた法然上人の詠まれた和歌です。詞書には「光明遍照十万世界とえいる心を」とあり、阿弥陀仏の光明は全ては照らし、くまなく降り注いでどんな人も掬い取るという慈悲の心を歌われたものです。

しかし、月が照り映えていても、その月を眺める人以外にはその月の美しさ（阿弥陀仏の光明）はわからない。逆に月のない夜でも心に月を思い浮かべて月光を宿すこともできる。この歌は、仏心を受け入れる心を、月の光を眺める人の心として表した歌と言えるのではないのでしょうか。

お香の意味

日本における香の歴史は、仏教が伝来した頃、その様々な仏教儀礼とともに香も伝わったと言われています。現在では、仏前に供える「共香」だけでなく、香りを楽しむためにお香を焚く家庭も多いのではないのでしょうか。



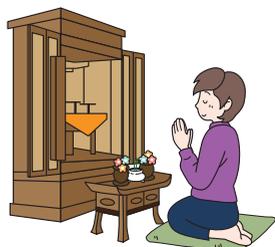
お香を焚く

普段、私たちの生活の中にある仏事でお香は欠かせないものです。法要に参列する時には焼香（抹香）を、仏壇の前などで手を合わせるにはお線香を焚きますよね。このお香を焚く習慣は古代のインドでお釈迦さまが現世の頃より行われていました。

浄土宗のよりどころとする教典のひとつ「大無量寿経」にある四十八願の中にはお浄土が芳しいお香でいっぱい

になるようにという願いがあります。

人間の体臭を消す目的で発達してきたお香は、お香を焚くことで体臭を消し、部屋全体を清浄な香りで満たします。それにより、心身を清々しく、安らかな気持ちで仏前に向かうことができるのです。



お焼香と燃香（家庭での焼香）

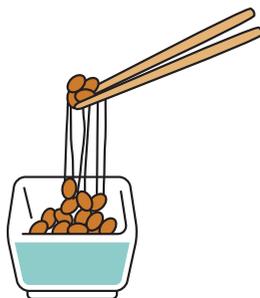
お香には、塗香（ずこう）・焼香などの用い方があります。塗香は、香木を粉末状にした抹香を体に塗ることで、法要などで僧侶が用います。焼香は香炉に火を埋めて、抹香（粉末状のお香）をくべますが、香りを長持ちさせるために「燃香」という方法が考えられました。これは本来大きな香炉に抹香をコの字に描き、交互に組み合わせた形で置き、その端に火をつけて燃焼させますが、手間と時間が必要なため、のりで固めた「線香」が伝えられました。

暮らしの中の 仏教語

「納豆」【なっとう】

言わずと知れた健康食品の納豆。その納豆パワーが最近益々注目されていますね。ところで、ご存知でしたか？ この納豆もその語源は、お寺と関わりがあるのです。

奈良時代に留学僧によって中国より納豆の原型である「塩豉（えんじ）」が日本の寺院に伝わりました。その後、僧侶が寺院の納所で作り桶や壺に納め貯蔵したことでこう呼ばれるようになったのだとか。（納所とは禅宗寺院で、施物の金品・米穀などの出納事務を執る所）「塩辛納豆」として寺院食や武士の携帯食になり、現在食べられている糸引き納豆とは異なり「寺納豆」とも呼ばれます。味噌によく似た風味で茶うけによく用いられるのだとか。



掲 示 板

彩の都メモリアルパーク管理事務所 年末年始休業のお知らせ

◆年末年始休業日◆

令和元年12月29日(日)～

令和2年1月4日(土)

年末年始の休業期間は管理事務所における事務手続き、電話問い合わせなどの業務はおこなえません。尚 墓所へのお参りは通常通り開門しておりますのでご自由にいらしてください。



彩の都メモリアルパーク管理事務所
TEL.048-921-4194 FAX.048-921-4195

令和2年 年回表

年ごとの命日を祥月命日といい、年回にあたった年の、この日に行う法要が年回(年忌)法要です。この法要では亡くなった方とご縁のある方が集まり、故人を偲びながらお勤めします。

1周忌	令和元年逝去	37回忌	昭和59年逝去
3回忌	平成30年逝去	50回忌	昭和46年逝去
7回忌	平成26年逝去	100回忌	大正10年逝去
13回忌	平成20年逝去		
17回忌	平成16年逝去		
23回忌	平成10年逝去		
27回忌	平成6年逝去		
33回忌	昭和63年逝去		



西願寺 令和2年 年間行事案内

- ※1月 1日(水) 修正会(新年をむかえての法要=おつとめ)
- ◎1月 7日(火) 七福神めぐりウォーキング(新年開運七草粥の会)
- ※1月25日(土) 法然上人御忌
- ◎2月 3日(月) 厄払い節分会法要
- ※2月15日(土) 涅槃会(お釈迦さまの命日)
- ◎3月17日(火) 春の彼岸会
～23日(月)
- ※4月 8日(水) 灌仏会(花まつり)
- ◎5月25日(月) 大施餓鬼会
- ◎7月13日(月) お盆会
～15日(水)
- ◎8月 2日(日) 合同新盆供養
- ◎8月13日(木) 旧盆会(13日・合同盂蘭盆会法要)
- ◎9月19日(土) 秋の彼岸会
～25日(金)
- ◎10月30日(金) 第11回十三夜お月見コンサート
- ※11月23日(月) 十夜会(念仏をとなくて善根をつむ法要=おつとめ)
- ※12月 8日(火) 成道会(お釈迦さまのお悟りの日)
- ※12月25日(金) 仏名会(念仏をとなくて一年を反省する法要=おつとめ)



毎月25日は念仏会を開いております
◎印は予定をたてて是非ご参詣ください。
※印は現在、寺だけで自主的に行っている法要=おつとめです。

■お便り募集■

編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。

◆イオ株式会社

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんが」編集部
東京都千代田区飯田橋四・七・十一カクタス飯田橋ビル7F
FAX 03(62695)1302 Mail: info@io-conet

■次号予告

次号は令和二年二月発行予定の「春のお彼岸号」です。



◆編集後記◆

毎年この時期になると「一年が経つのは早いですが、最後であり令和始まりの年となった今年は、様々な出来事があり、また大きなイベントも続いたので印象深い一年だったように感じます。皆さんにとっての一年はどのような年だったでしょうか。新年は、オリンピックキヤーでもあるので新しい年への期待も膨らみますね。

ところで、株式相場には干支にちなんだ格言があるようで「辰巳(たつみ)天井、午(うま)尻下がり、未(ひつじ)辛抱、申酉(さるとり)騒ぐ、戌(いぬ)笑い、亥(い)固まる、子(ね)は繁栄、丑(うし)つまずき、寅(とら)千里を走り、卯(う)跳ねる」というものだそうです。新年の干支である「ねずみ」は沢山の子を産むことから繁栄の象徴とされているそうです。二〇二〇年も皆さまにとって良い年となりますように。新年もどうぞ宜しくお願い致します。

発行者

遊馬山一行院 西願寺

〒三四〇〇〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三三四〇〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんか」編集部